

福岡・香椎^{かしい}B遺跡

- 1 所在地 福岡市東区香椎字寺熊
- 2 調査期間 第二次調査 一九九七年(平9) 一月～四月
- 3 発掘機関 福岡市教育委員会
- 4 調査担当者 下村 智・瀧本正志・田上勇一郎・本田浩二郎
- 5 遺跡の種類 集落跡・河道跡
- 6 遺跡の年代 平安時代末～戦国時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(福岡)

調査地は旧郡名では筑前国粕屋郡香椎となる。福岡平野の東辺部を画す多々良川から東は、三郡山系の博多湾まで達する丘陵によって占められ、丘陵間には幾つかの谷地形が所在する。その中で香椎川水系により形成された谷は、幅一〇〇m、奥行き二kmの規模を有し、やや蛇行気味に東西方向に伸びる。西方は開口して博多湾に面し、東方は低い峠を越えて宇美、太宰府

へと通じる。この谷の海岸から一kmほど奥に、『香椎宮編年記』に神功皇后を祭神として神亀元年に建立されたとある香椎宮(廟)が位置する。香椎B遺跡は宮からさらに五〇〇mほど谷奥に立地する。

今回の調査は宅地開発に伴うもので、計画地内にある中世～戦国期の山城の御飯^{おひい}ノ山城が立地する小山などの丘陵を切り崩して香椎B遺跡が立地する谷を埋め、三〇万^mの宅地を造成するものである。調査は一九九五年～一九九八年の四年間、四次に及んだ。一九九五・九六年の調査では谷部の二二〇〇^mを、一九九七年・九八年では工事の関係で九五・九六年に調査のできなかった谷部の二五〇〇^mと山城跡(御飯ノ山城)の全面的な調査とを行なった。

調査の結果、平安時代末～戦国時代の掘立柱建物・井戸・溝・土壇墓・堂跡などの遺構が確認された。また、奈良時代～一六世紀の須恵器・土師器・備前や常滑産の陶器・中国産陶磁器の他に、木簡・生活用具や祭祀関係の木製品、瓦類の多種多様な遺物が、各遺構や整地土層から出土している。

調査地の谷は、南側の三分の一程が未調査のまま宅地となった。そのため不明部分を残すものの、これまでの調査結果から香椎B遺跡の歴史の変遷を概観しておく。平安時代後半には、微高地に掘立柱建物が認められるが、整然と区画された地割は出現せず、自然流路や溜り、一部には水田が残る。遺構としては検出されなかったが、安楽寺所用軒丸瓦や鎌倉時代の大形鬼瓦などの瓦類が出土しており、

8 木簡の釈文・内容

- (2) □五郎二郎

- (3) 「雲収光」 □ □ □

- 雲收光
大日
□
□

- 「訓人恵」

- (98)
- $\times 41 \times 4$
- 019

(1)の下端部は、切り折りによる欠失。(2)は上部を欠き、〇三三型の可能性も残るが、付札であろう。五郎二郎は荷主名か。(3)は同字が並び、経文などの習書の可能性が高い。

香椎B遺跡は、古代―中世にかけては香椎宮と、その後は大友氏との密接な関係をもつて形成されてきた。今回の木簡資料および第一次調査出土の木簡資料は、これらを裏付けけるものになろう。

木簡の釈読については、九州大学の佐伯弘次・坂上康俊、九州歴史資料館の倉住靖彦の各氏からご教示を受けた。



香椎B遺跡出土墨書磁器

